令和７年度　学校評価自己評価表

a　ミッション	資質・能力の育成に向け主体的に学び続ける教職員集団による学校づくりの推進	a　ビジョン　（子ども達に育てたい資質・能力） （学校教育目標）　夢や目標をもち，主体的に学び続ける児童の育成　アイデンティティ・自発性・コミュニケーション能力 （めざす子供像）　○資質・能力を身に付け，主体的に学び続ける子供　○自他の良さや可能性を知り，他者と協働できる子供　○基本的生活習慣を身に付け，健康や体力等を増進する子供 （めざす教職員像）○確かな授業力をもち，資質・能力を育成する教職員　○実態把握をし，児童の力を最大限に引き出せる教職員　○主体的に学校経営に参画する教職員

世羅町立甲山小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 ィ	k 二次評価 ロ	k 二次評価 ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力	主体的に学び，学力を身に付けている児童の育成	○資質・能力の育成を目指して，個別最適な学びと協働的な学びの一体化を実現する。	・単元内自由進度学習の実践を深化させるとともに，一斉学習の中にも単元内自由進度学習の要素を取り入れ，個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。 ・キャリアログを活用し，全教育活動の中で資質・能力を育成する。（単元内自由進度学習・運動会・学習発表会・マラソン大会・かるた大会・六年生を送る会）	・全国学力学習状況調査，標準学力調査における学年平均が全国平均を上回る割合。 ・教師アンケート（授業観察）による児童の姿についての肯定的評価の教師の割合。 ・児童アンケートによるアイデンティティ，自発性，コミュニケーション力についての肯定的評価の児童の割合。	90% 4段階評価における3以上平均80% 5段階評価における4以上平均80%	66% 90% 76%	66% 94% 92.2%	73% 104% 115%	C A A	・校内で児童の学習の課題を分析する研修を行い，２学期からは学校全体で取り組む内容を決め，学力の向上に取り組んだ。特に，標準学力調査については，類似問題に取り組ませ，課題克服に向けて復習を行った。また，国語・算数・理科・社会の４教科については，毎時間の定着問題に取り組んだ。（国語は「漢字テスト」，算数は「読み上げ計算」，理科・社会は「定着問題」） ・単元内自由進度学習を2学期に行った2・5年生の授業に対する教師アンケート（授業観察）では，それぞれの質問において肯定的評価の割合は， 児童は，自分で立てた計画を進捗状況に応じて，学びを調整していた。【88%】 学習計画は，児童が自分で学びを進められるよう整理されていた。【100%】 児童が自ら学びを進める学習環境が整えられていた。【100%】 児童は自分の学びに満足していた。【88%】の結果が得られた。 ・児童アンケートでは，それぞれの質問における肯定的評価の割合は， 他の人と一緒に学ぶとき，自分の得意を生かしたり，苦手を補ってもらったりしながら学習を進めることができる。（アイデンティティ）【93%】 学んでいて解決できるか分からない問いや課題に出合ったとき，挑戦したり失敗したりすることを楽しめる。（自発性）【91%】 授業では，他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている。（コミュニケーション力）【92.5%】 １学期に行った学年よりそれぞれの項目で高い数値が見られた。	7			・学習規律や基礎基本の学力の定着は，小学校段階の指導が大きく影響します。主体的に学ぶ学習活動とともに，家庭学習の定着やドリル的な学習活動を通じた指導がバランス良く行われることに期待しています。 ・課題がある学年もありますが，引き続きよろしくお願いいたします。 ・課題のある学年の学習態度や学力テストの結果を出すために，何に要因があるのかをみんなで考えないといい結果は出ないと感じます。 ・学力調査の結果も大切ですが，それ以前に，楽しく学びことが重要だと思います。学習環境を大切にしてほしいです。 ・各学年において授業を受ける規律が定まっていないように感じました。例えば先生からの問いかけに対してまったく反応がなかったり，指名された生徒が座ったまま発表したり，その答えに対しての問いかけもないまま次に進んでいました。 ・数値目標は大事ではありますが，かばん棚の整理，机の中の整理，置き勉をしないなどの徹底，授業を受ける際の姿勢等々，日々の積み重ねが良い方向に向かうのではないでしょうか。若い先生が多い中スキルアップと活気のある授業風景を期待しています。	・１月の標準学力調査実施後，各学級担任で国語・算数は自己採点を行い，点数の低かった問題について，各学級で改善できるように類似問題等に取り組んでいる。 ・単元内自由進度学習について，教師の児童の見取りも，児童の自己評価も良い結果が出ている。今後は，それを一斉授業にどうつないでいくのかを，学校全体で研究として取り組んでいく予定である。
豊かな心	自他の良さや可能性を認識し，協働できる児童の育成	○道徳教育を核にした心豊かな児童の育成 ○課題意識をもち，創造的・協働的に問題を解決する児童会活動の推進	・「自己理解・他者理解」を進めるために，総合単元道徳に取り組む。 ・主体的に生活上の課題（あいさつ・返事・MUGON３を含む）を解決するために，ポイント制やゲーム形式など具体的な仕掛けをして取組を行う。	・教職員アンケート「学校課題を解決するために計画的に授業づくりを進めたか」 ・児童アンケート「月目標を達成するために自分から進んで頑張ることができたか」	80% 90%	92.7% 90.6%	88.9% 92.6%	111% 102%	A A	・教職員アンケートにおいて，「学校課題を解決するために計画的に授業づくりを進めたか」の肯定的評価は88.9%であった。道徳推進教員を中心に，学校行事との関連を意識しながら，年間を通して重点目標を決めて授業を進めた。そうすることで，教職員が同じ価値項目の教材を系統的に指導することを意識できた。 ・児童アンケートにおいて，「月目標を達成するために自分から進んで頑張ることができたか」の肯定的評価は92.6%であった。児童会を中心に，学校の課題を意識した月目標を設定した。給食時間の放送を活用して児童会が月目標を意識するように声掛けを行った。教職員も児童に積極的に声掛けや指導を行うことで，学校全体で取り組むことができた。	7			・道徳の授業を通した豊かな心の育成とともに，日々の学校生活における体験的な活動・学習を通して，子供達の人間関係形成能力が高まることを期待しています。 ・前回同様に，校内外で気持ちの良い挨拶ができる子どもが多いです。 ・課題解決の為に保護者と連携して取り組んだらいかがでしょう。 ・道徳の授業として学ぶだけでなく，日常生活の中で，人にやさしく，お互いを尊重する気持ちをもつことを身に付けてほしいです。	・設定した重点目標を意識するように，定期的に取組内容を確認するとともに，必要に応じて改善を行うことで学校課題に対応した授業づくりができるようにする。 ・教職員が統一した指導が行えるように，校内体制を整える。また，児童会の活動を通して全校児童が月目標を意識できる取組を行う。その際，ポイント制やゲームを取り入れることで楽しんで目標達成できるようにする。
健やかな体	主体的に健康や体力等を増進する児童の育成	○課題意識をもち，体力つくりをする児童の育成 ○課題意識をもち，基本的生活習慣の確立に取り組む児童の育成	・新体力テストの柔軟性に重点を置いた取組を進め，レベルアップを図る。 ・早寝・早起き・朝ごはん等について毎月生活チャレンジ習慣を設定して取り組む。	・体力テストの柔軟性（長座体前屈）の記録で，全国平均を上回る学年（男女別）の割合 ・生活チャレンジの「早起き」のパーフェクトの割合	60% 85%	25% 81.1%	58% 84.6%	96% 99%	B B	・１２月に行った２回目の記録では１年女子，２年生男女，５年生男女，６年生男女の平均は全国平均を上回った。体育委員会で作成した柔軟体操の動画を活用して，各学級での練習を行った。 ・生活チャレンジ週間は児童自身が点数化できように様式の変更を行ったが，令和７年9月82.5%，10月84.3%，11月80.0%，12月85.6%.1月84.6%と目標達成した５月，１２月の２回だけであった。生活チャレンジカードを提出できない児童も多い。12月保健だよりによる結果配信，保健委員会による呼びかけ，個人懇談会でも気になる児童について状況の確認を行った。	7			・児童自らが体力向上に向けた目標設定を行い，楽しみながら取り組むなどの工夫を取り入れることもできると思います。 ・児童が主体的に体力向上に努めるようになることを期待しています。 ・体力向上は日々意識的に訓練することによって向上するものと思われます。 ・生活習慣こそ保護者との連携やコミュニケーション必要だと思います。 ・新しい取組は、評価できます。引き続き継続してください。 ・朝の会や授業の終わり等、ちょっとした時間に少しづつストレッチを行うだけでも効果はあるのでとてもいい取組だと思います。 ・生活チャレンジは保護者の理解と協力が不可欠なので、チャレンジノートを確認し、しっかり連携を取ってほしいです。 ・生活習慣については家庭との連携が大切だと思います。課題として気になるのは、ＳＮＳの利用時間や内容です。	・全国の学年平均を提示して各学年で個人目標を立てて，体力テストに臨めるようにする。 ・生活チャレンジ週間の取組継続と保健委員会によるお知らせ放送を継続していく。お知らせ放送の内容を工夫していく。3月に保健朝会で保健・防災・食に関するクイズ大会を予定している。保護者との連携は不可欠であるため，保健だより等で様子を知らせていく。
信頼される学校	創立150周年の歴史と伝統を誇る児童が育つ学校づくりの推進	○コミュニティ・スクールの推進 ○教職員がやりがいをもつ学校経営の推進	・教育活動にかかわるサポートスタッフを増やし，地域と共に150年の歴史と伝統を誇る児童の育成を行う。 ・教育公務員としての自覚をもって職務に当たり，組織的な対応がとれるように，きめ細やかな報連相を行い，学校運営を行う。	・学校教育活動へのサポートスタッフとしての参加者が延べ100名を超える。 ７月達成目標50名 １月達成目標100名 ・教職員アンケート「組織的な報連相を行ってる」という項目の肯定的評価の割合	100% 100%	75名 100%	142名 100%	142% 100%	A A	・１月末までに学校教育活動へサポートスタッフとして参加してくださった方は累計で１４２名であった。読み聞かせ，にわか狂言指導，鼓笛指導等の定例化している活動への参加協力が中心となっている。 ・本年度から始まった完全給食に対応するための給食準備を毎週月曜日にサポートしてくださる方がおり，教職員の負担が低減した。 ・校外学習を実施する際に，保護者や地域の方に協力を呼びかけているが，参加してくださる方は固定化している。 ・アンケート結果から，全教職員が都度，報告・連絡・相談をきちんと行い，組織的な対応に取り組もうと意識していることが分かる。しかし，報告が遅れ，事案への対応が後手に回ることもあった。	7			・大変多くの地域の方々にご支援いただだけていることは素晴らしいです。持続可能な取組になることを期待しています。 ・サポートスタッフや給食サポートの取り組みは引き続き継続して，より地域との繋がりを強固なものになるようにしていただきたい。 ・引き続き自治センターとの連携、広報活動での呼びかけは必須です。PTAとも連携しリサイクル品回収作業を再開し、地域とのつながりの意識づけを図ってほしいです。 ・学校運営協議会の委員の皆さんの協力をお願いし、ともに話し合って進めていくことが必要ではないかと思います。 ・先生方の情報共有や意識統一が大切だと思います。	・サポートスタッフとして地域の方に学校教育活動へ協力していただくために，学校だよりで呼びかけを続ける。また，自治センターと連携し，地域の方に周知していく。 ・学校から地域へ出向いて活動する機会を設けることで，地域の方が参加しやすい体制づくりを整える。 ・即時報告・即時対応の重要性を再確認し，徹底する。 ・自己評価と他者評価のずれを修正していけるように，報連相の在り方について個別に指導する。

【自己評価　評価】
A：１００≦（目標達成）　　B：８０≦（ほぼ達成）＜１００
C：６０≦（もう少し）＜８０　　D：（できていない）＜６０

【外部評価】
イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。